

第 29 回 歯 科 衛 生 研 究 会

平成 20 年 7 月

講 演 抄 録 集

日 時 / 平成 20 年 7 月 30 日 (水) 午後 4 時 30 分

会 場 / 日本歯科大学新潟生命歯学部アイヴィホール

日本歯科大学新潟短期大学

歯科衛生研究会

会 長 小菅直樹

副 会 長 近藤敦子、宮崎晶子

実行委員長 高橋正志

企画運営委員 佐藤律子、土田智子、三富純子

庶務渉外委員 筒井紀子、原田志保、古屋野裕美、坂井由紀

事務担当委員 元井敏晴

[一般講演・講演者の方へ]

- 1) コンピュータで投影をする方は、発表データをUSBフラッシュメモリーまたはCD-Rにてご持参ください。
- 2) 当日午後2時30分から、コンピュータ投影テストおよび予備ノートパソコンへのデータの保存を行いますので、データを持ってお集まりください。
- 3) 一般講演の発表時間は8分（予鈴7分で青ランプ、終鈴8分で赤ランプ）、討論時間は4分です。
- 4) その他のお知らせ事項は、当日受付で致します。

第29回 歯科衛生研究会プログラム

日時 平成20年7月30日(水) 16時30分～18時39分

会場 日本歯科大学新潟生命歯学部 アイヴィホール

<16:30-16:35>

「開会の辞」

シンポジウム：『めざせ!! 認定歯科衛生士』

座長 宮崎晶子

<16:35-16:50>

1. 認定歯科衛生士制度について

三富純子(新潟病院歯科衛生科)

<16:50-17:15>

2. “インプラント専門歯科衛生士”認定資格取得について

松岡恵理子(新潟病院歯科衛生科)

<17:15-17:40>

3. 日本歯周病学会における認定歯科衛生士制度

～今、求められる歯科衛生士とは～

坂井由紀(新潟病院歯科衛生科)

<17:40-17:55>

総合討論

<17:55-18:10>

感謝状の授与・休憩

一般講演

座長 池田裕子

<18:10-18:22>

1. エナメル突起を覆うセメント質の被覆機序について

○高橋正志¹、森 和久²、又賀 泉²

(新潟短期大学¹、新潟生命歯学部口腔外科学第2講座²)

<18:22-18:34>

2. 本院歯科衛生士の学術・研究発表におけるアンケート結果と今後の展望

○長谷川沙弥¹、遠藤祐香¹、川崎美紀¹、野島恵実¹、坂井由紀¹、三富純子¹、
近藤敦子²

(新潟病院歯科衛生科¹、新潟病院総合診療科²)

<18:34-18:39>

「閉会の辞」

シンポジウム：「めざせ!! 認定歯科衛生士」 認定歯科衛生士制度について
新潟病院歯科衛生科 ○三富純子
<p>「歯科衛生士」という職業は、歯科衛生士法により以前は女子のみしか従事できない資格であったが、現在は同法附則第2項により男子にも資格付与できるようになっている。男子の歯科衛生士もきわめて少数ではあるがすでに現存し、歯科医療の現場で勤務している例もある。また、勤務先の大半は歯科医院である。医科病院の口腔外科や歯科でも従事しているが、これら病院では診療補助に関しては看護師が従事して行う割合が多い。そのため看護師のように夜勤をすることはほとんどない。従来、専門学校、短期大学での養成過程が一般的であったが、歯科医療の高度化・多様化に伴い、大学課程・大学院課程もあり、高学歴化がすすんでいる。</p> <p>近年、人口の高齢化の進展、医療技術の高度化・多様化および歯科医療ニーズの変化等に伴い、「歯科衛生士」を取り巻く環境は日々変化している。その変化に対応し歯科衛生士は、国民の歯・口腔の健康づくりを支援し、口腔機能の向上を担う専門職として、人々の健康と生活の質の向上に貢献することを使命としている。</p> <p>そこで、特定する専門分野において、水準の高い業務実践に対応できる歯科衛生士になるため、卒業後も継続学習により生涯を通じて研鑽を積むことは、専門職として責務であると考えます。</p> <p>今回、現状における「認定歯科衛生士制度」について報告させていただくことで、歯科衛生士学生が自分の将来について考える機会になれば幸いです。</p>

シンポジウム：「めざせ!! 認定歯科衛生士」 “インプラント専門歯科衛生士”認定資格取得について
新潟病院歯科衛生科 ○松岡恵理子
<p>(社)日本口腔インプラント学会は、歯科衛生士の口腔インプラントに対する専門知識と技術を向上させ、国民の口腔衛生の増進を目指すため、インプラント専門歯科衛生士制度を発足させた。これは平成19年度より発足した新しい認定制度である。それゆえ、まだまだ有資格者は少ないのが現状である。しかし今日インプラント治療は、喪失した歯牙の機能、審美回復の有力な選択肢となり、材料の性能、技術の向上などに伴いさらに需要が増えるものと予測される。またインプラント治療を行っていない歯科医院においても、今後インプラントの需要が増えることにより口腔内にインプラントを保有する患者様の来院も考えられるであろう。その際には、インプラントの基本を学び天然歯との相違点を理解した上でメンテナンスを行うことも必要となる。</p> <p>本シンポジウムでは、インプラント治療の概要と治療における歯科衛生士の役割、インプラント専門歯科衛生士認定資格取得のための、条件および費用などを紹介する。</p> <p>これを機に、インプラントに対する興味と知識を持っていただけたら幸いです。</p>

シンポジウム：「めざせ!! 認定歯科衛生士」
日本歯周病学会における認定歯科衛生士制度
～今、求められる歯科衛生士とは～

新潟病院歯科衛生科 ○坂井由紀

厚生労働省は現在、歯周病を生活習慣病にも位置付けており、国家・国民にとっても大きな課題となってきました。日本歯周病学会は、歯周病の予防・治療を通じて国民の健康を確保するために、様々な活動を行ってまいりました。そしてH16年には歯周病専門医制度が厚生労働省により承認され、歯周治療の新しい時代の幕が開きました。そして、歯周病の予防・治療にはブラークコントロール、スケーリング・ルートプレーニングを始めとする歯科衛生士の専門知識と技術が欠かせません。また、同時に、そのような歯科衛生士の育成と、さらなるレベルアップも必要不可欠です。このような背景のなか、H17年より認定歯科衛生士制度が誕生いたしました。そして規則第1章には、この制度の目的を「歯周治療および予防を通じ、歯科衛生士の専門知識と技術を確保するとともに、歯周病学の発展および向上を図り、もって、国民の口腔保険の増進に貢献すること」と記しています。

H20年5月1日現在の認定歯科衛生士数は、全国で631人にもものぼり、新潟はその内の25人です。私は、この数字が多いのか、少ないのかと考えた時に、少ないと感じました。なぜならば、歯周治療こそ歯科治療の始まりであり、一生お付き合いしていかなければならない治療であるからです。そして、「H17年歯科疾患実態調査」では、成人の約8割が歯周病に罹患していることから、いまだ歯周病の予防・治療が広く実施されていないことが示唆されます。残念ながら、当院でも現在1名しかおりません。

認定には、専門医・認定医の下、5年以上の臨床経験の中で多くの症例の治療に携わり、「歯科衛生士の視点」で歯周治療にしっかりと関わっているかどうか問われます。

そこで今回は、日本歯周病学会認定歯科衛生士制度の概要と、私が携わって来たいくつかの症例を交えてお話させていただきたいと思います。それらを通して、歯科衛生士の皆さん、これから歯科衛生士になる皆さんに、今求められているのは、そしてこれから求められるのはどのような歯科衛生士なのかを一緒に考えて行ければと思います。また、今後の歯科衛生士としての目標の一つに加えていただけると、とても嬉しいです。

エナメル突起を覆うセメント質の被覆機序について
新潟短期大学 ○高橋正志 新潟生命歯学部口外2 森 和久、又賀 泉
<p>【目的】エナメル突起の存在と根分岐部病変の発現との間に密接な関連がみられることが報告されている(川崎孝一ら, 1976; ほか)。今回は、歯根膜の再付着との関連から、エナメル突起を覆うセメント質の被覆機序について検討した。</p> <p>【材料と方法】抜去後、ただちに10%中性ホルマリンで固定した、エナメル突起のみられる上下顎大白歯を材料とした。セメント質に覆われたエナメル突起を含む、水平および頬舌側方向の研磨標本を作製し、偏光顕微鏡、位相差顕微鏡、マイクロラジオグラフィーで観察した。同一標本の研磨面を0.05 N HCl で45秒間腐蝕し、水洗、アルコール脱水して、臨界点乾燥したのち白金蒸着を施し、S-800型走査電顕(日立)で観察した。エナメル突起を被覆途中のセメント質、およびエナメル突起をHClで溶かし去った後の被覆セメント質の内表面を、同様にして、走査電顕で観察した。</p> <p>【結果】エナメル突起を覆うセメント質を水平方向の研磨標本で観察すると、セメント質の表層には多数のセメント小腔がみとめられたが、深層ではまばらであった。エナメル突起とセメント質との境界にはわずかな凹凸がみられた。覆い始めの標本では、直径5μm前後の半球形のセメント質がエナメル突起の両端にみられ、線維状の構造物が伸び出し、エナメル突起の表面にはりついているのが観察された。半球形のセメント質に覆われたエナメル突起の表面をHClで腐蝕し続けると、やがて半球形のセメント質は脱落し、脱落した後にはやや深い陥凹がみられた。エナメル突起を覆っていたセメント質の内表面は平滑ではなく、こまかい凹凸がみとめられ、長さ1μm以内の線維状の構造物がセメント質の中からエナメル突起に向かって突出しているのが観察された。</p> <p>【考察】エナメル突起を覆うセメント質は、歯根膜の再付着を可能にさせると考えられる。今回の観察結果から推察された、セメント質の被覆機序は、つぎのとおりである。エナメル突起の表面をセメント質が覆う際には、まず表面が部分的に吸収される。その結果凹凸ができた表面にシャープな線維をはりつけて、最初に形成する半球形のセメント質を表面にしっかり固定する。その後は順次その上にセメント質を上乗せしていく。エナメル突起を覆うセメント質は、最初は無細胞性セメント質であるが、次第に有細胞性になる。</p>

本院歯科衛生士の学術・研究発表におけるアンケート結果と今後の展望
新潟病院歯科衛生科 ○長谷川沙弥 遠藤祐香 川崎美紀 野島恵実 坂井由紀 三富純子 新潟病院総合診療科 近藤敦子
<p>【目的】近年、歯科衛生士は、コ・メディカルに分類され、その業務は多岐にわたっている。そのため、今まで以上に専門性を向上させ、学術的根拠(エビデンス)に基づいた職務を遂行する必要があると考えられる。</p> <p>そこで、本院歯科衛生士の学術研究活動に対する意識や現状を把握し、今後の活動に役立てる目的で、アンケート調査を行った。</p> <p>【対象・方法】対象は日本歯科大学新潟病院歯科衛生科32名(正職員29名、臨時職員3名)とし、自記式質問用紙によるアンケート調査を行った。実施時期は平成20年3月。調査項目は、平成20年度時点での歯科衛生士歴、資格・認定の有無、学会などに関する項目、発表や講演経験の有無およびその内容など15項目である。</p> <p>【結果】歯科衛生士歴は2~29年目であった。資格・認定取得者は全体の約53%(17名)であり、ケアマネジャーが最も多かった(複数取得者を含む)。現在学会に入会している者は約47%(15名)であり、日本歯科衛生学会をはじめ、日本歯科医学教育学会、日本老年歯科医学会、日本歯周病学会が多かった。学会、研究会などで発表や論文提出をした経験のある者は約72%(23名)であった。その内訳は歯科衛生研究会のみの発表が約52%(12名)、歯科衛生研究会および学外での発表は約39%(9名)、学外での発表は約9%(2名)であった。学内での発表が多い傾向にあった。講演を行った経験がある者は約22%(7名)であり、総数は33回で、講演内容は口腔ケアに関するものが多かった。専門誌や教本、リーフレットへの投稿、掲載の経験がある者は、若干名おり、内容はインプラントに関するものが多かった。</p> <p>【考察】アンケート調査の結果、口腔ケア、インプラント、歯周治療における学術研究は多くなされているが、審美歯科や小児歯科は上記の分野に比べて少ないことがわかった。また、特定の人物が論文提出や発表をしていることから、歯科衛生科全体で学術研究活動に取り組むことが望ましいと考えられる。</p> <p>この結果をもとに、今後、歯科衛生科では学術研究活動を通じて、スキルアップに努めていきたい。また、それを行うことで地域医療への貢献、大学の広報活動そして、実習生教育への還元につなげていきたいと考えている。</p>

次回の「歯科衛生研究会」は平成 21 年 3 月上旬に開催する予定です。
多数の講演の申し込みをお待ちしています。
